



# 本ばこ

## —新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている便利な図書・資料」などを取り上げます。

※データ凡例 ①著者 ②出版社 ③刊行年月 ④ISBN ⑤判型・ページ数 ⑥定価 ⑦その他

楽しく読んで日本語が学べる

### 『レベル別日本語多読ライブラリー』

#### データ

- ①NPO法人日本語多読研究会監修 ②アスク  
(〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6)  
TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867 URL.  
www.ask-digital.co.jp/ ③2006年10月
- ④978-4-87217-以下 レベル1：624-7 レベル2：  
625-4 レベル3：626-1 レベル4：627-8
- ⑤全レベルA5判5冊組 レベル1・2：各24ページ、  
レベル3：各32ページ、レベル4：各40ページ
- ⑥全レベル2415円 ⑦CD1枚付 あるいは  
以下のホームページから音声ダウンロード可能  
URL. www.ask-digital.co.jp/tadoku/



### ▽初級から読めるお話の本

日本語を学ぶ初級の学習者が楽しんで読める本はこれまであまりありませんでした。これは、楽しく本を読みたいと思っている初級から中級の人のためのお話を集めたシリーズです。このシリーズは四つのレベルに分かれており、各レベルにいろいろなジャンルから5冊ずつの読み物が集められています。例えば、「浦島太郎」「桃太郎」などの昔話、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」などの名作や、小泉

八雲の「むじな」「雪女」などの怖い話、ハチ公として知られる犬の実話「ハチの話」、原爆症で亡くなった永井隆の伝記など、思わず引き込まれて読んでしまうような興味深い話が集められています。カラーの挿し絵がたくさんあり、やや難しい語彙・表現があっても、前後の文脈や挿し絵から意味を推測することができます。また、お話の朗読を取めたCDが各レベルに1枚ずつ付いていて、耳からも日本語を吸収できます。

### ▽4段階のレベル

このシリーズは、語彙と文型、一話の長さ

(文字数)がレベルごとに制限されています。レベル1は初級前半で、語彙数が350、一話400-1500字、レベル2は、初級後半で、語彙数500、一話の文字数が1500-2500字、レベル3は初中級レベルで、語彙数800、一話の文字数は2500-5000字となっており、レベル4は中級で、語彙数13000、一話の文字数は5000-10000字となっています。すべてのレベルが通常の漢字仮名混じりで書かれ、漢字に振り仮名がついています。

### ▽楽しみながらたくさん読む

たくさん読むことによって、語彙や表現、

読む力などを自然に身に付けることができます。読むときには、難しい言葉が多すぎず、辞書を引かず読んでわかるレベルの本を選んで、どんどん読んでみましょう。読む前に絵を見て、話を予測してから、読むのもいいでしょう。初めて読むときは、CDを聞きながら読み、その後で、もう一度本だけを読んだり、反対に、朗読だけ聞いて楽しむこともできます。CDを使つてのシャドーイングなど、他にもいろいろ使



ハチの話 (レベル1 vol.1) 表紙



P.19

P.18

日本語の機能や会話の場面がわかりやすい

『マンガで学ぶ日本語会話術』

データ

- 1 金子史朗 2 アルク (〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12) TEL.03-3323-5514 FAX.03-3323-2201 URL. www.alc.co.jp/
- 3 2006年10月 4 978-4-7574-1108-1
- 5 A4判 167ページ 6 2520円 7 CD1枚付

本書は初級後半から中級までの学習者を対象に作られた日本語の会話術を学ぶための教材です。マンガを使って、日本語の機能や会話の場面をわかりやすく提示していることが特徴と言えるでしょう。

本書は二つのPartから構成されていますが、Part1「こんなときに日本語でどう話すか」は日本語の機能別テーマになっています。Part2「こんな場面で日本語でどう話すか」は会話の場面別テーマになっています。各Partはさらに12のテーマに分かれ、それぞれが「マンガ」「解説」「練習」「さらに会話術アップ+a情報」ないし「コラム」で構成されています。

Part1で取り上げられた「たずねる」と

いうテーマを見てみましょう。

まず、「聞き返す」と「意味を聞く」をテーマとする二つのマンガがあります。二つのマンガは連続したストーリーになっており、マンガの台詞に、学習する表現が使われています。

次に、マンガに出てくる表現についての解説があり、解説には英語の訳もついています。

また、学習する項目についての練習もあります。言葉の形の練習からスピーチまでさまざまなタイプの練習問題が用意されています。その解答及び解答例は巻末にあります。

「さらに会話術アップ+a情報」では会話をスムーズに進めるための注意点やヒント、便利な表現などが追加情報として載っています。

Part2には「日本をもっと

よく知るコラム」

があります。習慣、マナー、物などの文化情報

がイラストと一緒に提示されています。付属のCDにはマンガの台詞がすべて収録されています。



P.24



P.25

「わかる」から「できる」ための、聞きながら話す練習

『シャドーイング 日本語を話そう！ 初～中級編』

データ

- 1 斎藤仁志 他 2 くろしお出版(〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5) TEL.03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL. www.9640.jp/
- 3 2006年9月 4 978-4-87424-354-1
- 5 A5判 138ページ 6 1470円 7 CD1枚付

シャドーイングとは、耳から聞こえてくることばを、ほぼ同時に声に出してくり返す練習です。流れてくる音声のすぐ後を「影」のように追いかけるので、シャドーイングと言います。通訳の訓練法の一つですが、最近では、外国語教育にも効果が期待され、応用され始めています。この教材は、日本語教育において、おそらく初めてシャドーイングを全面的に応用したものでしょう。

わかっているつもりでも、言いたいことが、すぐに、なめらかに出てこないことがあります。ことばには（スポーツや乗り物の操縦のように）体で覚える、つまり、「できる」ための訓練が必要です。シャドーイングはその一つの

可能性であり、プロソディ感覚の養成を通じて、聴解力・会話力を高めるという効果が期待されています。

本書は五つのユニットで構成されていて、はじめの三つが日本語能力試験の3・4級、残りの二つが2級レベルです。

各ユニットは7～10のセクションから成っていて、全部で42セクションあります。

一つのセクションには、1、2往復の日常会話が10ずつありますが、場面や状況は会話ごとに異なっています。（反対のページには英語・中国語・韓国語の対訳が付いています）

会話のスタイル（フォーマル/カジュアル/混用）はアイコンによって、テキスト中に示されています。

本書を授業で使用する場合は、学習者が聞く前に内容を

理解しておくことや、一日の練習時間を10分程度にすることなど、使用法に注意するとともに、教師がシャドーイングの効果や方法についての簡単な知識をもっていることが大切でしょう。



P.48



P.49

初級から、短時間で効率よく、楽しく漢字運用力をつける

# 『Write Now! Kanji for Beginners』

## データ

- 1 向井留美子 他 2 スリーエーネット
- ワーク(〒101-0064 東京都千代田区猿楽町  
2-6-3 松栄ビル) TEL.03-3292-5751
- FAX.03-3292-6195 URL. www.3anet.co.jp/
- 3 2006年10月 4 978-4-88319-404-9
- 5 B5判 229ページ 6 1995円

本書は、初級の非漢字圏の日本語学習者が興味を持って達成感を味わいながら、漢字学習を続けられるように作られた教材です。

本書は、Step1とStep2の2部に分かれています。Step1(1課～11課)では、日本語能力試験出題基準4級を含む全漢字167字を、Step2(12課～21課)では、同3級を含む全漢字156字を学習できます。

各課の構成は、次のとおりです。まず、①「表紙のページ」では、その課で提出される漢字を使った漢字仮名混じり文を提示し、最終目標(文の読み書きができる)を明確化しています。次に、②「たしかめましょう」

では、その課で学ぶ漢字で構成された漢字語が絵で示されており、語を基本として、各漢字の意味と書き順の練習ができるようになっていきます。③「やってみよう」では、応用練習として、クイズ形式で漢字語と意味を関連づけたり、文を書く練習ができるようになっています。

その他、各課によって「Guess」、「これは大切」、「町の漢字」があります。「Guess」では、漢字を絵と結びつけ、その課で学習する漢字の意味をイメージできるようにしています。「これは大切」では、漢字の読み方(音読み・訓読み)や、書き方、送り仮名のルールなどを解説しています。最後に、「町の漢字」では、町で見られる標識の漢字を写真で示し、その課で学んだ漢字と結びつけるようにしています。授業

で応用する場合は、学習者に関連する漢字を見つけさせたり、各自が見つけた漢字を教室で共有しながら漢字学習を広げていくこともできるでしょう。



P.28



P.29

「あっさり味」「さっぱり味」、さて、その味の違いは？

## 『「擬音語・擬態語」使い分け帳』

## データ

- 1 山口仲美、佐藤有紀 2 山海堂(〒113-8430  
東京都文京区本郷5-5-18) TEL.03-3816-1617
- FAX.03-3816-1619 URL. www.sankaido.co.jp/
- 3 2006年11月 4 978-4-381-08627-3
- 5 B6判 183ページ 6 1050円

「わくわく」したり「どきどき」したり、「いらいら」したり「むかむか」したり、「ぐっすり」寝たり「すやすや」寝たり、日本語にはたくさんの擬音語や擬態語があります。みなさんは、使い分けや意味の違いがうまく説明できるでしょうか。

本書は、なかなかうまく説明できない「擬音語・擬態語」の使い分け練習帳です。まず、1ページ目で似ている二つの擬音語・擬態語の意味の違いを、具体的な場面を設定して読者に考えさせます。そして、2ページ目はその解答ページで、二つの擬音語・擬態語の意味の違いがわかりやすく説明されています。全部で190の擬音語・擬態語が扱われています。

本書は次の5章からなっています。  
①「美味しさ」を表す擬音語・擬態語、  
②「人の感情」「人間関係」を表す擬音語・擬態語、③「人の行動」を表す擬音語・擬態語、④「物の様子や音」を表す擬音語・擬態語、そして、⑤短歌や俳句に登場する擬音語・擬態語です。興味のある章から意味の違いを自分で考えながら読み進めることができます。

著者は、なぜ擬音語・擬態語にしばって本書を書いたかについて、次のように述べています。「擬音語・擬態語は、普通の言葉と違って、発音が意味に直結しています。『どきどき』という発音そのものが、心臓の鼓動を写しています。……(中略)……  
こういう語群で意味の違いを考えるということは、日本語の音と意味に対する感性を磨くのに最適なのです。それは、言葉を的確に使っていくのに役立つ言語感覚を育てます。」

本書を読みながら、みなさんも言語感覚を磨いてみてはいかがでしょうか。



P.11

P.11～13は国際交流基金の以下の日本語専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

向井園子、王崇梁、生田守、金孝卿、木谷直之(執筆順)